

マルチスライスCT

当院のCTスキャナーが平成16年6月初旬に新しくなりました。当病院にはじめてCTが導入されたのは昭和58年のことです。その当時は、1枚の輪切りの写真を作るのに要する時間が4.5秒、例えば腹部全体の輪切りの写真をとるのに、4.5秒の息止めを20回～50回も繰り返さなければいけませんでした。それから20年余りが経過した現在、技術革新によりCTはマルチスライスCTとして新しく生まれ変わりました。

■ マルチスライスCTとは

当院に導入されたマルチスライスCTの特徴を説明いたします。



● マルチCT用高効率検出器

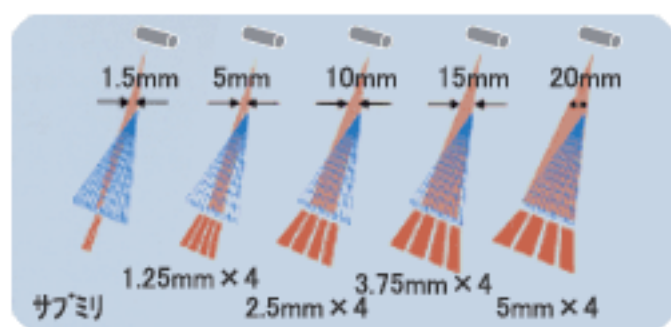
低アフターグロー日立製セラミックシンチレーターを、高精度に分割したF.S.M.D (Fine Slot Multi Detector)を採用。ch間の分離帯幅を従来の30%以上狭めることによりX線利用効率を大幅に改善されました。

⇒[今までより少ないX線で撮影することができる](#)

● 豊富なスライス厚設定

診断目的に合わせて、サブミリから最大10mmまでのスライス厚が設定可能です。また、マルチリコン機能により、胸部ではスクリーニング(スライス厚5mm)、精検(2.5mm)、3D(1.25mm)というように1回の撮影で3種類の厚さの画像を得ることができます。

⇒[細かく撮影することが可能](#)



● 0.2秒画像再構成

従来の高速演算基盤を1枚のチップに凝縮し0.2秒/画像の真のリアルタイム再構成(=Live再構成)を実現している。

⇒[つまり早い!!](#)

● New WAVEアルゴリズム

仮想検出器列という新しい概念により、従来のピッチ6を上回るハイピッチスキャン(ピッチ7)においてもマルチスライス特有のアーチファクトを抑えた診断価値の高い画像を再構成できる。

⇒[つまり綺麗!!](#)

● Adaptive mA標準装備

胸部や腹部など部位ごとに最適な管電流を自動計算し、回転中に管電流をリアルタイム制御します。

患者さんの被曝線量を大幅に低減するだけでなく、広範囲撮影における画質のばらつきを抑えます。

⇒[つまり被曝が少ない](#)

